

令和元年度教育研究活動報告書

氏名	平山直樹	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	英語学		

I 教育活動

本年度担当科目	
	授業科目
学部	TOEIC I、応用英語 I、上級英語 I、英語学特論
大学院	

II 研究活動

現在の研究テーマ（3つまで）

(1) 『パストン家書簡集』における英語の歴史的研究

本年度を含む過去3年間の研究業績 R1・H30・H29

H30 〈学会発表〉 Complex Sentences in the *Paston Letters*, PALA (Poetics And Linguistics Association) 2018, University of Birmingham, 2018年7月28日.  
 〈論文〉 “Modal Auxiliaries of Obligation in the *Paston Letters*: With Special Reference to *shall*,” *The Pleasure of English Language and Literature: A Festschrift for Akiyuki Jimura*, Edited by Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, and Osamu Imahayashi, pp. 47-62, Keisuisha, 2018年12月. (単著、査読無し)

H29 〈論文〉 “*Think and Trow in the Paston Letters*,” *Studies in Middle and Modern English: Synchronic Aspects: Historical Variation*, pp. 71-89, Kaitakusha, 2017年6月30日. (単著、査読無し)

H28以前の主な研究業績

(1) 〈論文〉 「『パストン家書簡集』における*please*」、谷明信・尾崎久男編『15世紀の英語—文法からテキストへ—』、pp. 41-59、大阪洋書、2013年3月29日. (単著、査読無し)

(2) 〈論文〉 「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月. (単著、査読無し)

(3) 〈論文〉 「名詞節を導く*that*の省略について—『パストン家書簡集』におけるTHINK—『英語教育への新たな挑戦—英語教育内容学の視点から』、pp. 205-17、英宝社、2010年7月. (単著、査読無し)

(4) 〈論文〉 “Epistemic Adverbs in the *Paston Letters*,” *English Philology and Stylistics: A Festschrift for Professor Toshiro Tanaka*, Edited by Osamu Imahayashi and Hiroji Fukumoto, pp. 59-71, 溪水社、2004年12月. (単著、査読無し)

(5) 〈論文〉 “The Language of Requests in the *Paston Letters*: The Grammaticalization and Subjectification of X PRAY Y,” 広島大学英文学会『英語英文学研究』第46巻、pp. 25-43, 2002年3月. (単著、査読有り)

学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） H29・H30・R1

所属学会・所属団体 役職等と任期

日本英文学会、日本英文学会中国四国支部（編集補助：2013年4月1日～2016年3月31日）、日本中世英語英文学会（研究助成委員：2017年4月1日～2019年3月31日、2018年4月1日～2019年3月31日は委員長）、日本中世英語英文学会西支部、近代英語協会（事務局長：2015年10月1日～2019年9月30日）、英語史研究会、英語コーパス学会、山口大学英語教育研究会（編集委員）、尾道市立大学日本文学会

IV 社会活動

1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）

(1) 「15世紀イギリスの手紙文を読む際の諸問題について—『パストン家書簡集』に着目して—」、尾道文学談話会第3回、於 尾道市立大学サテライトスタジオ、2019年6月3日（月）

公開講座	1回
講演会	回
出前授業	回
その他（ ）	回

上記の尾道文学談話会では、日頃の研究で扱っている15世紀の書簡集『パストン家書簡集』において、現代英語と違うために、または手紙文独特の文体であるために読解が難しくなるいくつかの点について、例を挙げながら紹介した。具体的には、まず、現代英語と異なる文字、綴り、現代では使わない語、文法構造を例示した。次に、書簡集が普通の手紙だけでなく、契約書など法律文書も含んでいるため、文書のジャンルによる違いを示した。最後に、月日ではなく聖人の名で日付を表す点や、金銭の単位など、文化的な特徴を例示した。